

～幼保小の子どもの学びと育ちをつなぐ～

架け橋通信



令和5年度 第2号
(令和5年10月発行)

京都市教育委員会 学校指導課
幼保小の架け橋プログラム担当

TEL:075-222-3746

架け橋プログラムを進めるためのQ&A ～9/6 架け橋プログラム 情報交換会より～

9月6日に3研究ブロックと11の実践研究校に関係する就学前施設と小学校等が集まり、情報交換会が開催され、下京雅小学校ブロックの実践発表に続き、会の後半ではグループに分かれて、時間一杯まで各校園の実践交流や課題などについての意見交換が活発に行われました。以下のQ&Aは、一部ではありますが、その様子をまとめたものです。



Q1: スタートカリキュラムの具体的内容が知りたい

- A1: 入学式の過ごし方を工夫しました。当日の1年生の教室には机を入れず、遊びスペースを作りました。
- A2: 1年生は入学前の交流で校舎を案内されているので、4月の学校探検は1年生の行きたい場所を中心に実施しました。
- A3: 就学前施設の先生方の意見を聞きながら生活科の合科化を進めています。
- A4: 園の先生の協力を得て、朝の時間に絵本の読み聞かせをしています。



Q2: 幼保小の子どもたちの交流について知りたい

- A1: 5月図画工作科「すなとなかよし」の単元を、幼稚園・保育所のスコップや道具を借りて、5歳児と一緒に行いました。
- A2: 5月に幼稚園・保育園の5歳児と一緒に、生活科「はるみつけ」の学習を御苑で行いました。
- A3: 小学校のプールで5歳児が水遊びをしました。
- A4: 秋には公園で「あきみつけ」を一緒にしたり、公園で集めたどんぐり等で作ったおもちゃで5歳児と遊んだりします。
- A5: 運動会に園児が参加したり、音楽発表会に招待したりしています。
- A6: 3学期の生活科「あたらしい1年生をしょうたいしよう」で学校探検や学校生活の紹介をします。



Q3: 交流以外でどんな取組をしていますか

- A1: 教職員全員で近くの保育園の保育参観や、1年生の授業を就学前施設の先生方に公開し、一緒に研究協議をしています。
- A2: 夏休みに合同研修会を行い、架け橋プログラムや園の生活について交流しました。
- A3: 幼稚園の先生と一緒に、1年生の校内研究授業の指導案づくりをしました。

Q4: 体制づくりやプロセスを教えてください

- A1: 管理職同士がしっかり連携をとっていただいた後、1年生担任と5歳児担任などの担当者同士で連絡を取り合っています。
- A2: 幼保小での合同研修会を校内研修に位置付けています。「お互いを知る」ことから始めています。
- A3: 「チーム架け橋」を校内で立上げ、架け橋掲示板や「架け橋だより」を作成し、架け橋の取組の見える化に取り組んでいます。

Q5: 多数の園から入学してくるので、1年生の経験値がばらばらです。どうしても授業は「ゼロからのスタート」と捉えてしまいます。どうすればいいでしょうか

- A1: 入学してくる全就学前施設の保育内容を把握することが難しいので、近隣の数園の保育内容を知り、そこから1年生の経験値を把握しながら、授業に活かしています。
- A2: 本校も20園から入学しています。全ての授業ではないのですが、近くの園の5歳児担当と相談して授業準備をしています。
- A3: 子どもたちに園でどんなことを経験してきたか聞いています。図画工作科や生活科の学習と共通していることを経験していました。

れっつ ちゃれんじ!!

今からはじめる 架け橋プログラム!! ～大林先生からのご提案!～

7月28日に開催された「令和5年度 第5回 こどもみらい館共同機構研修会」では、大林 照明 佛教大学特任教授を講師にお迎えし、架け橋期の子どもたちのために保幼小の皆さんに取り組んでほしい連携や接続について提案頂きました。その主な項目をご紹介します。

- ① **チーム架け橋**…校園長のリーダーシップのもと、主任や担任による「チーム架け橋」を発足させる。「架け橋だより」「架け橋コーナー」をつくり子どもたちや保護者、教職員・保育者に「架け橋の見える化」を図る。
- ② **交流会の開催**…小学校を会場として連携・接続主任による企画で幼保小の交流会を始める。定期的に会を重ねることで「玄関のピンポンを押しやすい関係に…」
- ③ **幼児教育を意識した教科指導**…就学前施設での集団での生活経験や遊びの中でのエピソードを想起させながら、就学前の成長を小学校の生活や学習につなげていく授業改善に取り組む。



架け橋プログラム 3研究ブロックの取組紹介

御所南小学校ブロック

夏季休業中に幼保小の合同研修会

7月26日(水)に御所南小学校で、小学校の先生と就学前施設の先生との合同研修会が行われました。社会福祉法人長岡福祉海印寺こども園 森脇逸朗先生の講演を受けて、各先生の実践から“幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」”についてのグループ協議が実施されました。

1年生に限らず、他学年でも「10の姿」が見取れることを共有しながら、子どもがより主体的に学習に関わる環境や子どもを理解しようとする教師の関わりが大事であること、また、就学前施設と小学校の教育での子どもの評価の違いや給食や食育の考え方、2学期の生活科の授業展開について等、各グループで活発に意見交換や情報共有ができていました。今後の互いの教育に生かすとともに、学び合うことを通して幼保小の先生が親近感を深めたり、リスペクトしたりする様子も見られました。



下京雅小学校ブロック

保育と授業参観、その後の合同研修から学ぶ

これまでの楊梅幼稚園の公開保育では選択活動の参観でしたが、6月9日は5歳児の一斉保育の参観でした。活動内容は、園で収穫した玉ねぎとジャガイモを使っての玉じゃがピザパーティーの準備です。その後の23日には、1年生の生活科「なかよしいっぱいだいさくせん」の授業参観と合同研修が開催されました。ここでも子どもが活動しやすい場の設定、豊富な材料を選び役割を決めて目的に向かう1年生の姿が見られました。

このように似通った活動を参観し合ったことで、発達に関する共通点をお互いが見出し、学びが充実するキーワードとして「子どもの必要感」「自己発揮」「相手意識」の3点を共有するなど、幼児期の保育と小学校教育の内容がどうつながるのかを考える上でよい研修だったと思います。



竹田小学校ブロック

夏季休業中を利用して、保育所の公開保育とブロック会議を開催

竹田小ブロックでは、改進黨保育所が夏休み期間中の3日間にわたって幼小の全教員が参加できる公開保育と、公開保育最終日にはブロック会議が開催されました。ブロック会議では、公開保育参観後のアンケートを紹介し、「自分のしたいことをして、生き生きと活動していた。自己決定できる場があり、小学校にもつなげたい」等のブロック会議に参加できない先生の意見も共有するなどして、学校全体で取り組む工夫が進められていました。また、生活科の単元「いきものとなかよし」の授業構成に生かしていくため、「幼保での子どもたちの生き物との関わり方」や「本単元のねらい」等を協議し、共通理解されていました。

さらに、架け橋の取組を全教職員に広げようと「架け橋コーナー」の設置を計画されています。接続に関する取組を新聞にして、小学校は教職員・児童が必ず目にする給食室への通路に、幼保は保護者の啓発を意識して保護者の目にも触れる場所に掲示する予定です。互いの教育を理解し合い、授業・保育に生かすとともに、その取組を全教職員や保護者へ広げようとしています。



コラム

なかにしサンの 幼分補給

さらさらの作りの巧妙な技に魅せられて

〜3つの資質・能力が育つ〜

保育公開でA君の姿に釘付けになりました。

粘土板に園庭の砂をのせ巧妙な手つきで砂をふるい落とし、さらさらを作ります。(知識・技能の基礎) 何度も繰り返し、納得できるさらさらになったのか、「よしー」って感じで、一定の場所に集めます。(思考力・判断力・表現力の基礎) 片付けになった時点で、雑草の根元に一定量のさらさらを均等に置いていきます。さすがに意味がわからず、聞いてみると「植物が育ちますようにって思っ」という返事！(学びに向かう力・人間性等)

大人にはあり得ない発想ですが、A君にとつて大事なさらさらは、そのような力をもつ大切なものなのでしょう。保育を観るとき、子どもが夢中になる姿に魅入ってしまいます。そこには、子どもの願いや試行錯誤、達成感や満足感が見られます。夢中になって遊べる子は、夢中に学べる子だと思えます。子どもの夢中をつくる手だては、子どもの発達によってちがうのですが、どの校種でも大切な視点だと思います。



中西 昌子(なかにし しょうこ)

京都市教育委員会 学校指導課 参与、市立小学校教諭、幼稚園教諭・教頭、竹田幼稚園長、市教委首席指導主事を経て、平成三十年度から現職。